

## 第二章 知能検査でみた総訓生の素質について

### 第1節 総訓生全員の知能程度

知能偏差値は、調査対象全員の総括的傾向からみると、平均値 SS 48、標準偏差 SD 8.1である。

#### 1-a 訓練校別の傾向

訓練校別の知能偏差値および標準偏差値を示したのが、第5表である。

知能偏差平均値で最も高い総訓は「05」、「15」の2校で、それぞれSS 52であり、最も低い総訓は「12」のSS 43である。

標準偏差をみると、最も小さい値の総訓は「05」でSD 5.8であり、最も大きい値の総訓は「10」でSD 9.3である。

平均値と標準偏差との関連からみて、最も良好な傾向を示しているのは、総訓「05」で知能偏差値SS 52、標準偏差SD 5.8を示し、SSも高いし、偏差も小さいのである。

このように、調査対象とした総訓生全体を総括しての知能程度は、明らかに訓練校によつて差異がある。\*※

#### 2-b 職種別の傾向

訓練生全員について、職種別に知能偏差値、標準偏差を示したのが第6表である。

知能の高い訓練職種は、電子SS 53(SD6.6)、自動車整備SS 52(SD6.5) 製図SS 53(SD6.3) 織機調整SS 51(SD10.8)、第2自動車整備SS 54(SD5.3) 建築SS 50(SD5.7) などである。

一方、知能の低い訓練職種は、鋳物SS 41(SD9.4)、ブロックSS 39(SD8.1) 銅器SS 38(SD8.5)、などである。

知能偏差値の最も高い職種である「電子」と最も低い「銅器」との間にはSS 14の差がある。

このように、訓練職種によつて訓練生の知能程度に大きな差がある。

さらに、職種ごとの知能偏差値を43年度調査と比較すると、「電子」SS 53

---

\*この原因を明らかにするために、今後社会学的調査が必要である。

に対し、43年度SS 53、「機械」SS 49に対し、43年度SS 49、「自動車整備」SS 52に対して43年度SS 54、「板金」SS 47に対し、43年度SS 49、「溶接」SS 46に対し、43年度SS 45である。

つまり、総訓生を総括的にみた場合、職種ごとの知能偏差値は昨43年度調査とほぼ同程度を示し、訓練職種ごとに知能程度が順位づけられている。

第5表 総訓生全体の訓練校別 平均知能偏差値      第6表 総訓生全体の職種別 平均知能偏差値

訓練校名	値	知能偏差値	標準偏差
		平均	
01		47	7.7
02		48	7.8
03		49	8.2
04		47	9.2
05		52	5.8
06		50	7.9
07		48	9.2
08		45	7.1
09		47	8.2
10		50	9.3
11		49	7.0
12		43	8.2
13		48	7.3
14		49	7.5
15		52	7.1
全体		48	8.1

職種名	値	知能偏差値	標準偏差	43年知能偏差値
		平均		
01	電子	53	6.6	53
02	電気	49	6.8	50
03	機械	49	7.1	49
04	仕上	46	9.0	47
05	精機	49	7.3	51
06	自動車	52	6.5	54
07	板金	47	8.2	49
08	溶接	46	8.9	45
09	鋳物	41	9.4	46
10	配管	46	7.1	46
11	木工	46	7.5	48
12	塗装	45	8.5	47
13	ブロック	39	8.1	42
14	製図	53	6.3	59
15	織機	51	10.8	—
16	フライス	46	7.3	—
17	銅器	38	8.5	—
18	製罐	47	9.1	—
19	第2自動車	54	5.3	—
20	電工	48	3.7	—
21	建築	50	5.7	—

## 第2節 中卒訓練生と高卒訓練生との知能水準の比較

44年度総高訓への入校者は中卒者86.8%、高卒者13.2%である。

44年度素質調査の学歴構成は中卒者84%、高卒者16%である

まず、中卒訓練生と高卒訓練生との間にどれくらいの知能の差があるかを検討する。

第7表のごとく、知能偏差値の平均は、中卒訓練生SS 48 (SD8.1)であり高卒訓練生SS 53 (SD6.9) である。

また、その分布をみると、(第8表参照)SS 34以下の者が中卒群に5.1%であり、高卒群に0%である。逆にSS 65以上の者は中卒群1.3%、高卒群4.4%である。

つまり、高等教育修学可能な知能程度をSS 55以上とすれば、中卒総訓生の20.5%がこれに該当し、前年度とほぼ同率である。

また、知能偏差値SS 34以下の者は集団での学習がかなり困難と予測されるが、この率は5.1%である(前年度は5.7%)

中卒訓練生と高卒訓練生との知能程度の差は、平均値でSS 5、標準偏差でSD1.2である。

つまり、中卒訓練生群は高卒訓練生群よりもいく分知能程度が低いといえる。

この傾向は、第8表が示すように、43年調査とほぼ同様である。

第7表 学歴別知能偏差値

中高卒別	値	平均 (AV)	標準偏差 (SD)	43年度 AV	43年度 SD
01 中卒者		48	8.1	48.5	7.9
02 高卒者		53	6.9	53.6	6.7

第8表 学歴別知能偏差値分布

学歴		SS分布					
		34以下	35-44	45-54	55-64	65-74	75以上
44年度 人数	中卒	73	354	705	274	19	0
	高卒	0	32	112	117	12	0
44年度 %	中卒	5.1	24.8	49.6	19.2	1.3	0
	高卒	0	11.7	41.0	42.9	4.4	0
43年度 %	中卒	5.7	27.7	47.6	18.1	0.9	0
	高卒	0	9.6	50.0	36.2	3.2	1.0

### 第3節 中卒訓練生の知能程度

前述のごとく、中卒訓練生群の知能偏差値の平均はSS 48、標準偏差SD8.11である。

43年度調査の値は平均SS 49、標準偏差SD7.9であるから、中卒訓練生の44年度と43年度の知能程度はほぼ同様といえる。

#### 3-a 訓練校別の傾向

第9表が示すごとく、知能偏差値の平均が最も高い訓練校は「05」、「15」の2校でいずれもSS 52であり、逆に低い訓練校は「10」、「12」の2校でいずれもSS 43である※

つまり、中卒訓練生だけについてみても、知能程度の高い者が入校する訓練校と比較的低い者が多く入校する訓練校があるといえる。※

※ 総訓「15」は43年調査でもSS 51と高く、総訓「12」は43年調査SS 45であつて、本年度の知能傾向と一致しており、訓練校の特色が見られる。

※ 訓練校のおかれている地域の教育的ならびに産業的背景、さらには入校時の選考方法によつて、訓練校間の知能程度の差が生じていると推定される。この原因は更に追調査する必要がある。

### 3-b 職種別の傾向

第1図に示したのが知能偏差値の高い順位に職種を配列したものである。

知能偏差値の高い者が入っている訓練職種は「電子」、「自動車整備」、「建築」である。逆に、低いものが多い職種は「鋳物」、「配管」、「ブロック」「銅器」である。

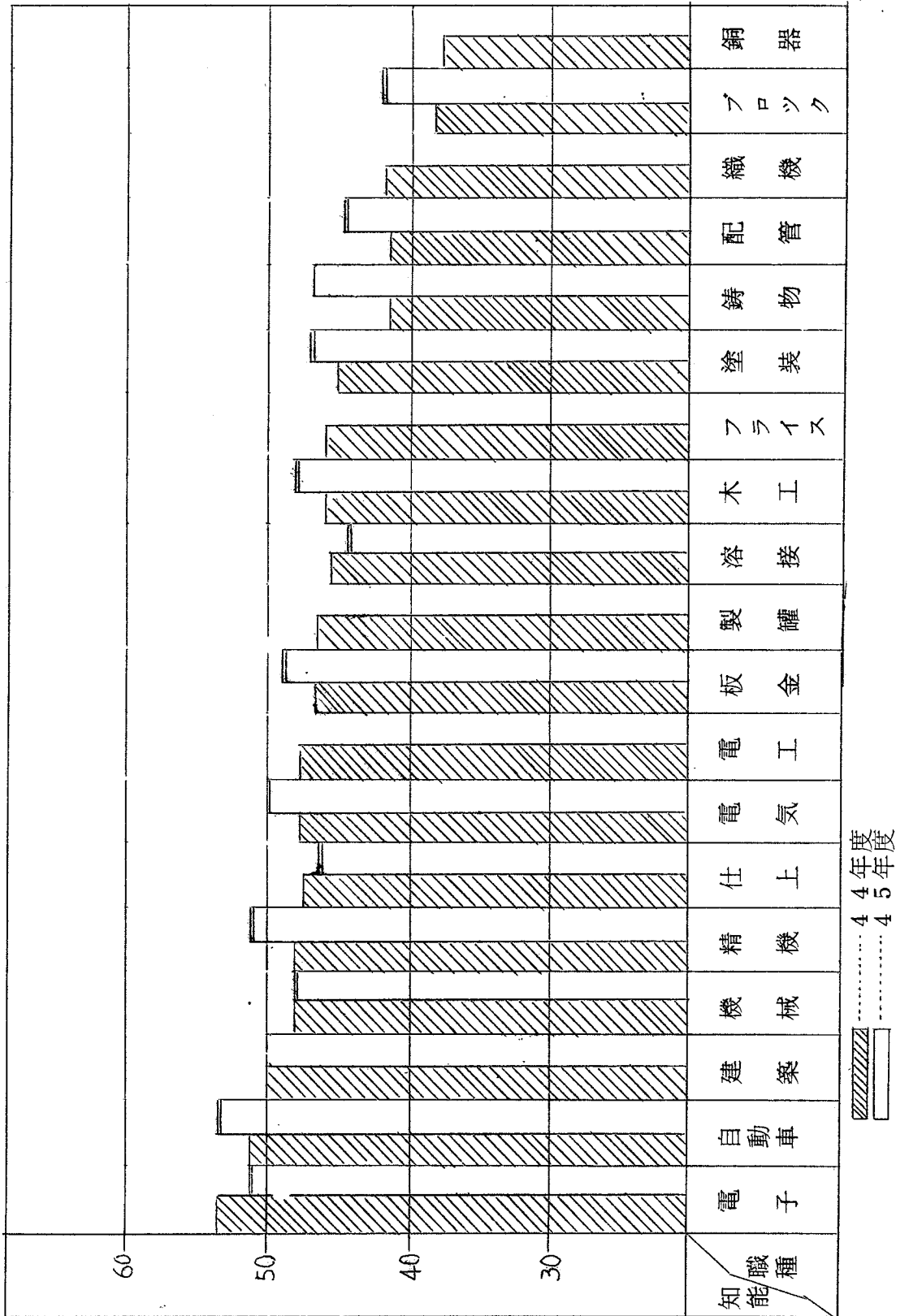
43年度調査と比較すると、2年間ほぼ知能程度と同じ職種は「機械」、「仕上」である。前年度より若干あがり気味の職種は、「電子」、「溶接」である。その他の職種はわづかながら、知能値がさがっている。

しかし、昨年度と本年度との職種内での有差意はみとめられていない。ここでは、中卒訓練生群の職種における43年度との差違はほとんどない。

第9表 中卒訓練生の訓練校別知能

訓練校	知能偏差値平均
01	46
02	47
03	49
04	45
05	52
06	47
07	48
08	45
09	47
10	43
11	49
12	43
13	46
14	48
15	52

第1図 中卒訓練生の職種別知能



#### 第4節 高卒訓練生の知能程度

高卒訓練生はこれからの公共職業訓練における核になると期待されている。

現在、全国総訓で14.0%が高卒訓練生である。

この高卒訓練生の知能程度について述べる。

高卒訓練生の知能偏差値は平均でSS 53、標準偏差SD6.9である。昨年度はSS 54、SD6.7であるから、やはり高卒訓練生の知能程度も昨年度とほぼ同様の傾向を示している。

##### 4-a 訓練校別の傾向

前述のごとく、高卒訓練生の比較的多く入っている訓練校は5総訓である。その訓練校の平均値を示すと第10表のとおりで、高卒訓練生群の知能程度は訓練校間の差異は少ないといえる。

##### 4-b 職種別の傾向

高卒者の比較的多く入っている職種は9訓練職種である。

最も高い値の職種は「第2自動車整備」でSS 57、逆に最も低い職種は「溶接」のSS 49である。

つまり、高卒訓練生群での職種間の差違はみとめられるが、ほとんどが知能偏差値SS 50以上である。

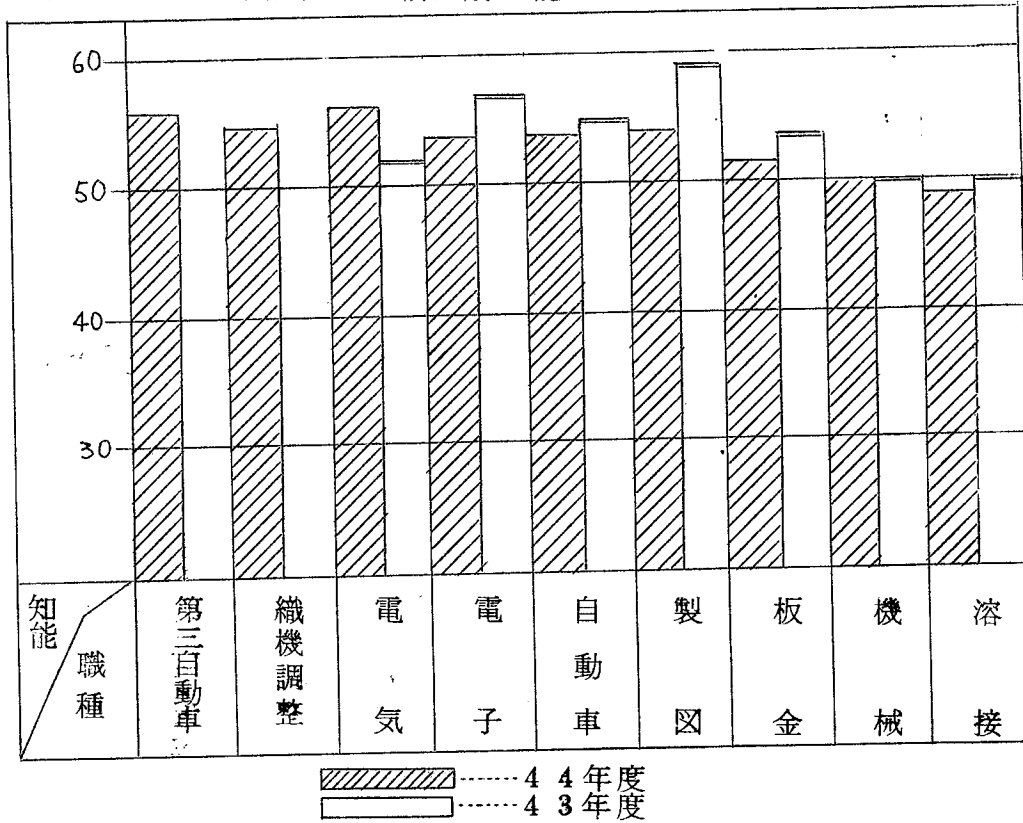
ここで注目すべきことは、43年調査と比較して、「電子」「製図」など知能が高いことを要求される職種において、前年度より知能偏差値が若干低下する傾向をしめしていることである。つまり、「電子」では、43年SS 57が、44年SS 53に低下し、「製図」では43年SS 59が44年SS 53にやはり低下している。(第2図参照)

以上が総合高等職業訓練校訓練生の知能検査からみた素質の現状である。

第10表 高卒訓練生の訓練校別知能

訓練校名	知能偏差値平均
04	53
06	54
10	54
11	51
14	53

第2図 高卒訓練生の職種別知能



第5節 中学校調査からみた場合の

総高訓入校者と進学者、就職者との知能の比較

総訓への進路を選択する者は中学校卒業者のうち、約1%弱である。

今回の中学校調査では、総訓に比較的多くの生徒を進ませている中学校を調査サンプリングの基準にしているので、調査対象者中総訓への進路を選んでいる者は10.9%である。

第11表は進路別の平均知能偏差値を示している。

公立高校普通課程への進学者の知能偏差値はSS62.7、公立職業課程はSS55.7、私立高校SS48.4、就職者SS42.2、そして、総訓への進学者の知能偏差値はSS45.6である。\*

\* 本年度中卒訓練生の知能偏差値はSS48であるから、中学校調査対象は若干平均より低い者がサンプリングされた結果となつている。



つまり、進路別の知能偏差値からみると、総合職業訓練校進学者は、私立高校進学者と就職者との中間に位している。

第 3 図 は私立高校と就職者との間の「総高訓」の位置をはつきりさせるために、サンプル数（データ数）を増加して集計したものである。平均値でちょうど両者の中間に位置している。公立高校進学者群と、

私立高校、総高訓、就職者を含めた群との間の差は前年度より大きくなっている。

43年度は私立高校進学者知能SS 51.5 に対して総訓進学者知能SS 49.8 と知能値が普通で差も小さかったので、私立高校と総訓との知能程度はほぼ同様の水準と結論づけたが、本年度調査からは、総高訓進学者は就職者と私立高校との中間に位置づけられている。\*

知能偏差値の段階ごとの分布状況を示したのが第 4 図である。中学校卒業者の進路が、知能程度によつて、はつきり決定されている姿がうかがわれる。

第 11 表 進路別知能水準（中学校調査）

10校・23クラス43名

進路	公立高校 普通課程	公立高校 職業課程	私立高校	就 職	総高訓	合 計
SS値 (平均)	62.7	55.7	48.4	42.2	45.6	
人数	174	171	45	49	54	493
%	35.3	34.7	9.2	9.9	10.9	100
43年度						
SS43年 (平均)	59.4	55.9	51.5	43.3	49.8	
人数	171	126	72	81	41	491
%	34.8	25.6	14.6	16.4	8.3	100

※ 各県の教育計画による進路指導の方針もことなるので、来年度以降の調査により結論を明確にしたい。例えば、03総訓の所在県などは、総訓への進学率は極くわずかで、知能偏差値の低い者が総訓へ入っている

第3図 進路別知能偏差値分布

(対象は人数)

進路 SS区分	私立高校	総高訓	就職
75以上			
74-70			
69-65			1
64-60	3	1	2
59-55	12	6	6
54-50	10	13	8
49-45	9	21	13
44-40	11	13	15
39-35	3	13	11
34以下	2	4	14
知能偏差 平均値	48.4	45.5	42.4
調査人員	(48)	(72)	(70)

第4図 進路別知能偏差値の分布

進路 SS値	公立 普通	公立 職業	私立	就職	総高訓
75以上	8				
74-70	19	4			
69-65	31	13			
64-60	39	54	3	1	1
59-55	38	48	12	6	5
54-50	13	34	9	6	8
49-45	19	27	8	7	17
44-40	14	8	10	12	12
39-35	3	2	3	7	7
34以下	1		2	10	3